

2008年3月期 報告書

2007年4月1日～2008年3月31日

フィールズ株式会社 証券コード:2767

FIELD5 2008



代表取締役会長 (CEO) 山本 英俊

「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて。

当社グループは、去る2008年6月10日をもって設立20周年を迎えました。これもひとえに株主各位をはじめ、多くの皆様方のご支援、ご協力の賜物であり、衷心より厚く御礼申し上げます。

当社グループは、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて、設立からのおよそ10年間においては遊技機流通のオープン化を目指して、全国のパチンコホールにサービス、空間、遊技機のあり方などファンの皆様が好き提案を実施し、直近の10年間においては、大手遊技機メーカーと提携し、魅力的なコンテンツを搭載した射幸性に頼らない遊技機の提供に努め、パチンコ市場の発展と健全化に寄与することで自らも成長してまいりました。

さらに多様化する余暇市場にあって、当社グループは常に時代の環境変化をいち早く予見し、パチンコ・パチスロ分野を起点に、かねてよりデジタルコンテンツの多角的利用を基幹とする戦略を企業競争優位性構築の基盤と捉え、その推進に注力してまいりました。今や当社グループの事業領域は、パチンコ・パチスロ分野はもとより、ゲームソフトウェア、スポーツ、モバイル、さらには映画、アニメーションなど映像分野に拡がり、一層幅広いエンタテインメント分野をカバーするグループを形成するに至っております。

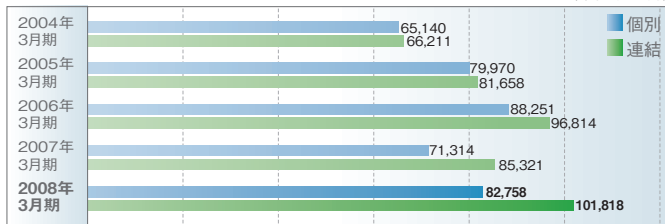
そして、今般、次の10年後のあるべき姿を目指し、2008年4月からの5年間を一つの区切りとした第一期中期経営計画を策定いたしました。当社グループのさらなる持続的な成長に向け、グループ各社間でのシナジー効果の最大化を図り、コンテンツの創出・融合や多面展開などのクロスメディアビジネスを強力に推進していくことで、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

財務ハイライト

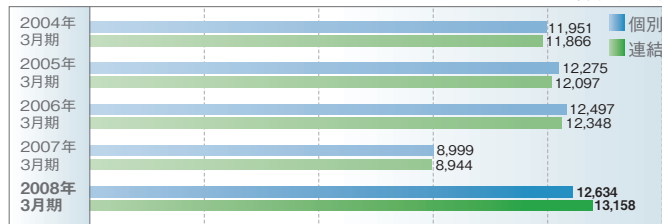
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



戦略的な事業展開および投資を実施。

当期の業績概況につきましてご報告申し上げます。

中核事業であるPS・フィールドにおいては、新規対応パチスロ遊技機の入替え需要が集中すると予測し、上半期はパチスロ遊技機を重点的に投入するとともに、下半期はパチンコ遊技機を軸とした戦略を推進し、「CR新世紀エヴァンゲリオン～使徒、再び～」をはじめとする魅力的な商品を積極的に投入しました。また、新たな提携メーカーとして京楽産業.(株)との事業提携を発表し、早期の市場投入に向けた取り組みを開始しました。ゲーム・フィールドにおいては、海外市場では初のオリジナルグローバルコンテンツを投入し好調に推移しました。その他フィールドにおいては、スポーツ分野ではトータル・ワークアウトの4店舗目となる福岡店を新規出店し、モバイル分野では、新たに携帯電話書籍の配信ビジネスに参入、映像分野では、映画、アニメーション、およびコンテンツファンドなどへの投資を引き続き積極的に行うなど、当社グループ全体の一次コンテンツ創出に努めました。

以上の結果、当期の売上高は101,818百万円(前年同期比19.3%増)、営業利益は13,158百万円(同47.1%増)、当期純利益は5,296百万円(同42.8%増)となり、好調な業績のもと増益となりました。

次期につきましては、今般策定した中期経営計画のスタートの年でもあり、当社グループの成長戦略の礎を築く重要な1年と位置づけ、事業面はもちろんのこと、経営基盤の強化も実施してまいります。

なお、2008年3月期の期末配当につきましては、1株につき2,000円の普通配当に、500円の設立20周年記念配当を加えた合計2,500円を実施しております。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

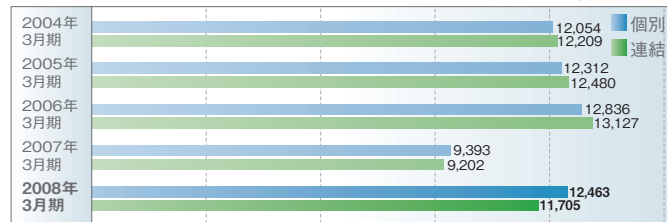
※中期経営計画の概要についてはP3～6で紹介しています。



代表取締役社長(COO) 大屋 高志

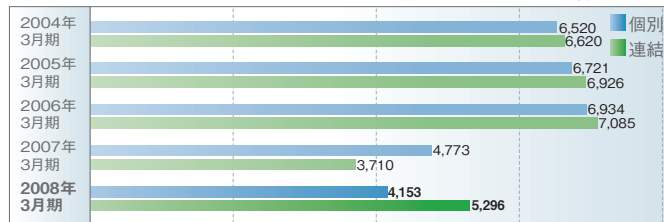
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



市場の活性化のために、本当に良いものを仕掛ける。

当社グループは、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて、遊技機のオープン化を推進する流通商社として、さらに大手遊技機メーカーと提携し魅力的なコンテンツを搭載した遊技機を提供するファブレス企業として、パチンコ市場の発展と健全化に寄与することで成長してきました。こうした実績をベースに、今後の10年、さらに持続的な成長のためには、

既存事業の強化や見直しに加え、新たな余暇ビジネスの創出が不可欠であると認識しています。当社グループは、10年後のあるべき姿の実現に向け、2009年3月期からの5カ年を第一期とする中期経営計画をスタートさせました。

遊技機流通のオープン化

1988-1997

全国のパチンコホールに対してサービス、空間、遊技機のあり方などファンが喜ぶ提案の実施。

- ホールへの提案営業展開
- 業界の認知度向上と活性化を推進

ファブレス企業として メーカー提携加速

1998-2007

魅力的なコンテンツを搭載し、射幸性に頼らない遊技機の提供。

- 有力遊技機メーカー各社と提携
- コンテンツビジネスへの取り組み

当社の強みを生かして

2008-2017

ファブレス企業として

既存提携メーカーとエンタテインメント性の高い遊技機を作り、ホールに提供する。

コンテンツホルダーとして

取得・保有著作権(コンテンツ)をプロデュースし、すべてのメーカーに供給する。

最大手の独立系流通企業として

すべてのホール、メーカーが活用できるWeb/ショールームの提供を通じて、流通企業としてのさらなる発展を目指す。

営業利益目標

2011年3月期

170億円以上

2013年3月期

250億円以上

グループ企業が全体30%寄与目標

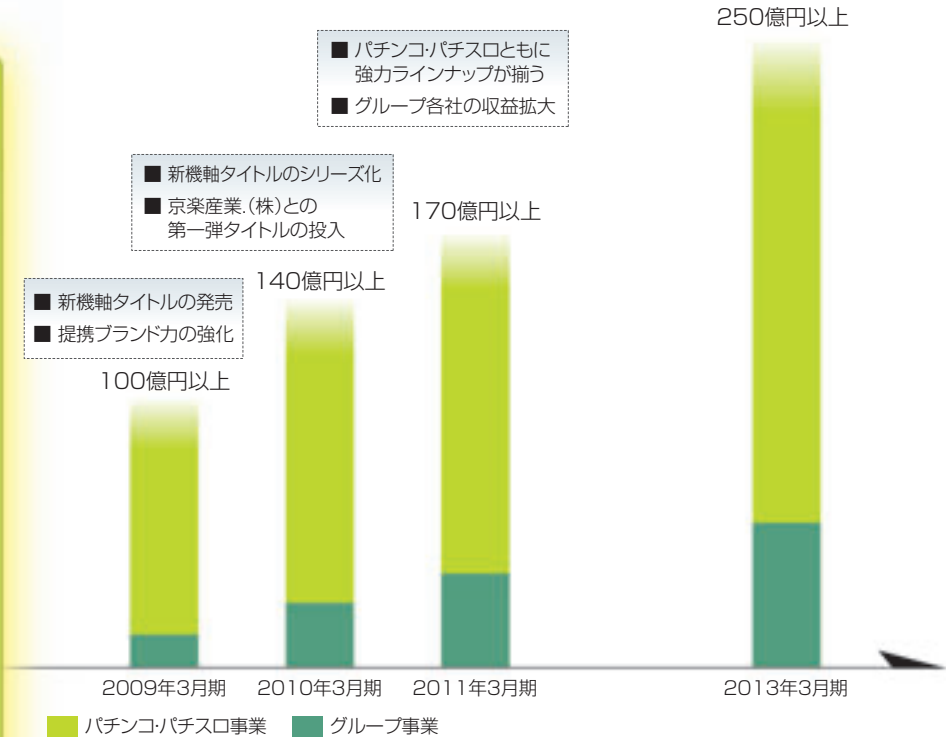
成長に向けた基本方針

1 市場の拡大・健全化に寄与する商品の提供

- 「コンテンツプロデュース」に向けた体制の強化
- 顧客別・地域別販売戦略の展開

2 優良コンテンツの発掘・育成・活性化

- クロスメディアのビジネス戦略
- 一次コンテンツの創出



- パチンコ・パチスロ企画・開発力再強化期
- グループポートフォリオ再構築期

- コンテンツプロデュース本格展開期

第一期中期経営計画

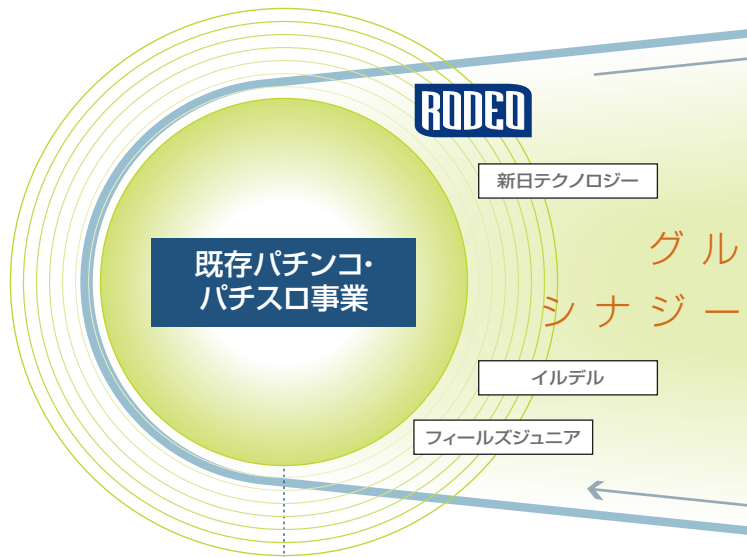
両軸のビジネス展開でグループ価値の向上へ。



基幹ビジネスであるパチンコ・パチスロ事業分野においては、市場拡大・活性化への寄与とともに、圧倒的な収益基盤として拡大するために、3つの施策を推進していきます。

また、グループ事業においては、クロスメディアビジネス戦略として、3つの施策を推進していきます。

これらの施策により、まずは既存の企業群での早期収益化を図り、必要に応じ投資も継続して実施していきます。グループ各社では、独自に事業を拡大させながら、各社が保有する付加価値の高いコンテンツをパチンコ・パチスロ遊技機、ゲームソフトウェアなどに有効に活用することによって、各事業分野において競争優位性を獲得できるように努めていきます。



パチンコ・パチスロ事業の主な施策

① 提携戦略の推進

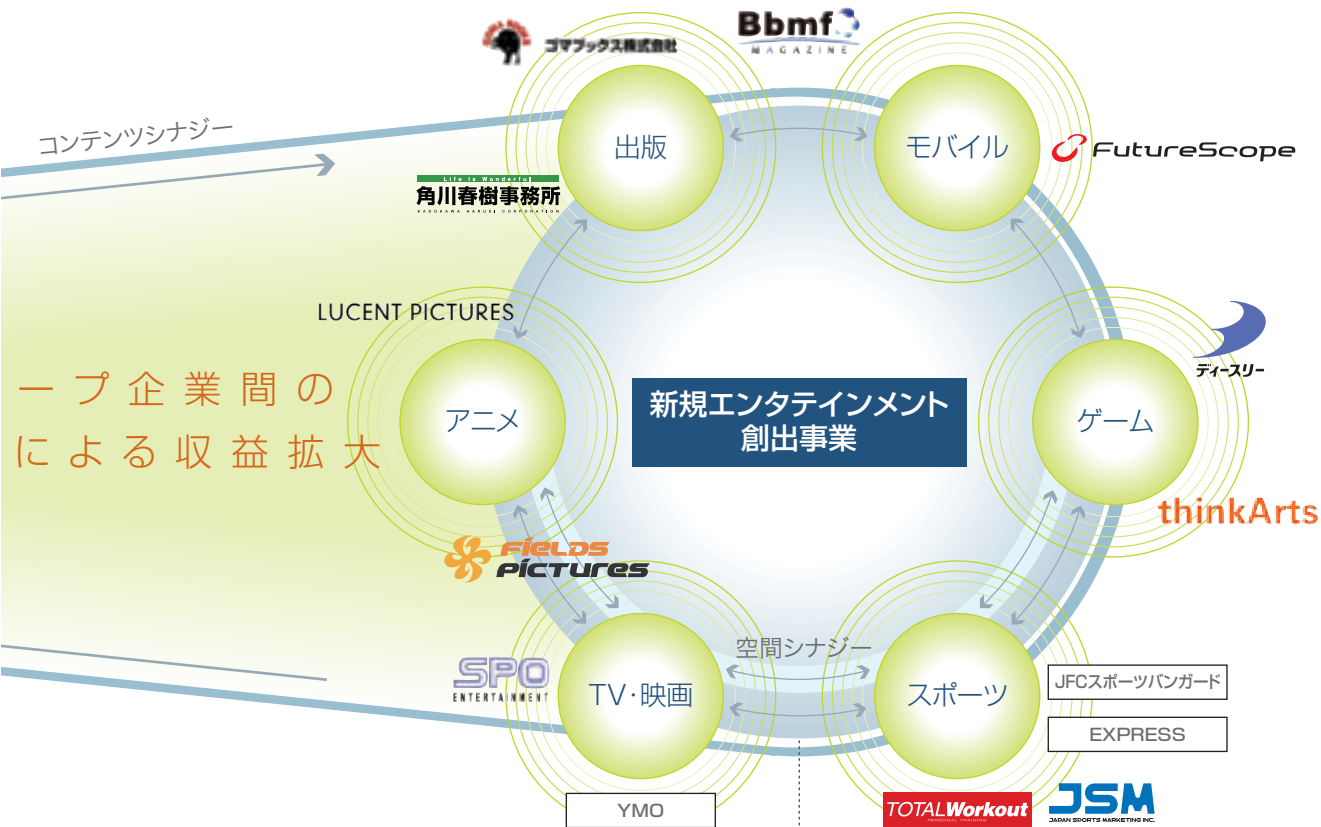
既存提携メーカーとのさらなる関係強化を図るとともに、本年2月に新たに提携した京楽産業.(株)との第一弾の商品を2010年3月期にリリースできるよう積極的に取り組んでいきます。

② 企画・開発力の強化

優良著作権(商品化権)の活用と著作権の魅力を最大限に引き出す企画力の強化、品質向上・利益貢献のための開発力の強化に努めていきます。既に、企画・開発体制の抜本の見直し、画像ソフトウェア会社の子会社化などを実施しています。

③ 営業基盤の強化

独立系最大手の流通商社という強みを生かすとともに、全国拠点販売戦略およびセールスプロモーションのあり方についての見直しなどに着手していきます。



グループ事業の主な施策

- ①パチンコ・パチスロ化のための優良版権の取得推進
- ②マルチユース展開による収益拡大
- ③各メディアへの積極投資による一次コンテンツの創出

クロスメディアのビジネス戦略

ゲーム、映像、出版、スポーツなどの各分野において獲得したコンテンツについては、引き続きパチンコ・パチスロでの利用を重要な一つの出口戦略としつつ、マルチユースを促進し、グループシナジーに

よる収益拡大を実現するビジネススキームの構築を図ります。また、グループ内におけるマルチユースのみにとどまらず、グループ外へのライセンスも強化していきます。

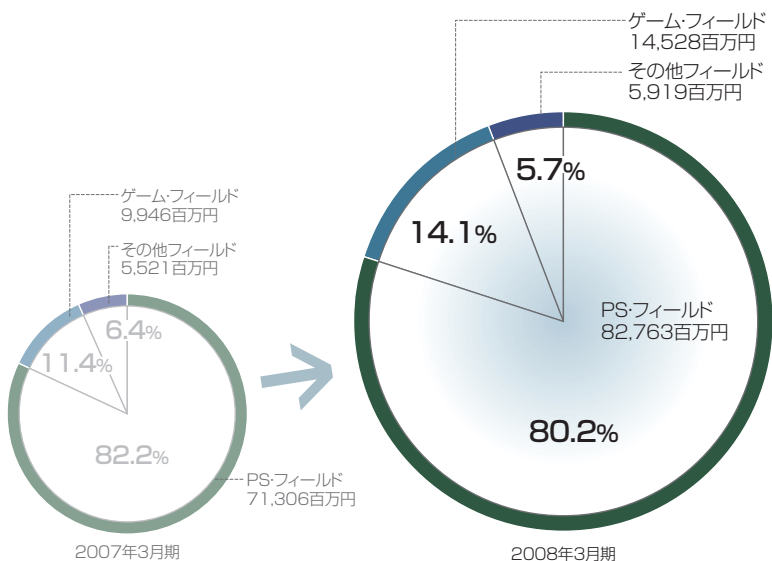
多彩な収益モデルを有するゲーミング&エンタテインメント企業へ。

国民各層の余暇時間の増大とともに、エンタテインメント産業全体が多様化する今日、余暇市場は大きな構造変化の時を迎えています。

当社グループは、こうした時代の環境変化をいち早く予見し、パチンコ・パチスロ分野を起点に、かねてよりデジタルコンテンツの多元的利用を基幹とする戦略を企業競争優位性構築の基盤と捉え、その推進に注力しています。

2008年3月期は、パチンコ・パチスロ分野はもとより、ゲームソフトウェア、スポーツ、モバイル、映画、アニメーションなど各分野で積極的な事業展開および投資を行いました。

セグメント別売上高構成比率



※事業の種類別の売上高には、セグメント間の内部取引または振替高を含んでいます。

PS・フィールド

事業内容

グループの中核セグメントとして、パチンコ・パチスロ遊技機の企画・開発および販売を行っています。サミー(株)／(株)ロデオ／SANKYOグループ・(株)ビスティ／(株)オリンピアなど有カメーカーとのコラボレーション体制を確立し、有力コンテンツを生かしたエンタテインメント性の高い商品を生み出しています。

ゲーム・フィールド

事業内容

PS・フィールドとのシナジーが高い同フィールドをコンテンツのクロスメディア展開における重点セグメントと位置づけ、(株)ディースリーをはじめ各社を通じて、国内外でゲームソフトウェア販売事業を展開しています。

その他フィールド

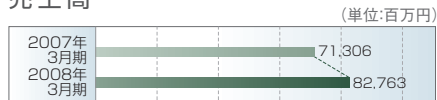
事業内容

コンテンツのクロスメディア展開をけん引すべく、グローバルにコンテンツが豊富なスポーツ分野、他のメディアと親和性の高い映画・アニメーション分野、新しいメディアとして存在意義を高めているモバイル分野などで、積極的な事業投資を行っています。

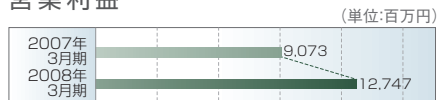
当期概況

上半期に新規則対応パチスロ遊技機の大規模な入替え需要に合わせパチスロ遊技機の販売に重点を置いた結果、売上が好調に推移したことに加え、下半期のパチンコ遊技機販売も好調に推移しました。以上の結果、当セグメントの売上高は82,763百万円(前年同期比16.1%増)、営業利益は12,747百万円(同40.5%増)となりました。

売上高



営業利益



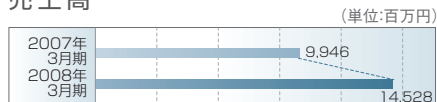
主なグループ企業

- フィールズ(株)
- フィールズジュニア(株)
- 新日テクノロジー(株)
- (株)ロデオ
- イルデル(株)

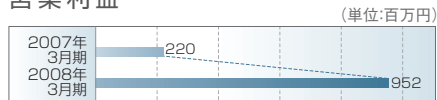
当期概況

海外市場におけるゲームソフトウェア販売において、(株)ディースリー初となるオリジナルグローバルコンテンツの販売が好調に推移し、業績に大きく寄与しました。以上の結果、当セグメントの売上高は14,528百万円(同46.1%増)、営業利益は952百万円(同332.5%増)となりました。

売上高



営業利益



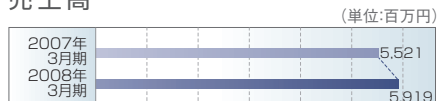
主なグループ企業

- (株)シンクアーツ
- (株)ディースリー
- (株)ディースリーパブリッシャー
- (株)エンターテインメント・ソフトウェア・パブリッシング
- (株)D3Publisher of America, Inc.
- (株)D3Publisher of Europe Ltd.
- (株)Vicious Cycle Software, Inc.
- (株)D3DB S.r.l.

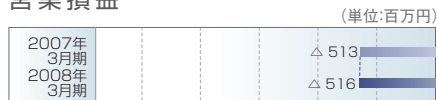
当期概況

モバイル分野において、エンタテインメント情報の総合コンテンツを提供するサイト運営事業が本格稼働しました。また、将来のグループシナジー発揮に向けた積極的な投資によりコストが先行しました。以上の結果、当セグメントの売上高は5,919百万円(同7.2%増)、営業損益は516百万円となりました。

売上高



営業損益



主なグループ企業

- ホワイトラッシュチャームズジャパン(株)
- ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)
- フィールズピクチャーズ(株)
- ハルキ・フィールズシネマファンド
- (株)フューチャースコープ
- (株)EXPRESS
- ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)
- JSM HAWAII, LLC
- (株)エスピーオー
- (株)Bbmマガジン
- (株)角川書店事務所
- ジー・アンド・イー(株)
- (株)Y-M-O

※グループ企業の事業内容はP18を参照ください。

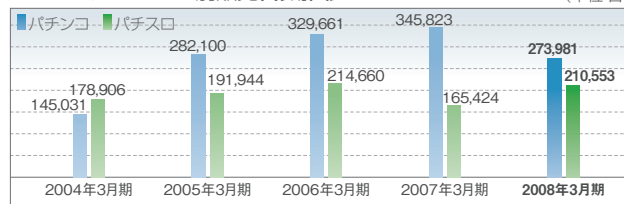
戦略的な遊技機の投入で、販売が好調に推移。

従来にもましてコンテンツの質が競争優位の決め手になる中、今後の成長を期するために、企画商品の抜本的な見直しおよび企画・開発力の強化を進めています。

当上半期は、新規則対応パチスロ遊技機への入替え需要に対応し、下半期においては、パチンコ遊技機の入替えニーズの高まりを予測し、遊技機を戦略的に投入しました。

パチンコ／パチスロ別販売台数推移

(単位:台)



パチンコ遊技機販売事業 エヴァンゲリオンシリーズなど、有力タイトルを下半期に投入。

パチスロ遊技機の入替え需要に対応するため、上半期は2機種の入荷にとどめ、一方、下半期はパチンコ遊技機の入替えニーズが高まると予測し、積極的に4機種を投入しました。特に、(株)ビスティ製「CR新世紀エヴァンゲリオン～使徒、再び～」は大ヒットを記録し、総販売台数は27万台強となりました。

2009年3月期は、パチンコ遊技機販売事業に軸をおいた戦略とし、パチン

コホールおよびファンのニーズにあった良質な商品をタイミングよく提供していきます。既に、第1四半期発売の(株)ビスティ製「CRA新世紀エヴァンゲリオン プレミアムモデル」は、市場から高い評価を頂いています。さらに今後、新機軸タイトルや大型タイトルの投入を計画しています。

パチンコ遊技機

上半期	1Q	 [CRルーニー・チューンズBIA] TM&©Warner Bros. Entertainment Inc. (s07) Produced under license by Cross Media International, LLC	パチスロ遊技機販売に注力し 2機種発売にとどめる	
	2Q	 [CRサクラ大戦] ©SEGA ©RED ©Sammy		
下半期	3Q	 [CRマスク・オブ・ゾロ] ©1998 Tristar Pictures, Inc. All Rights Reserved. ©2007 Zorro Productions, Inc. All Rights Reserved.	 [CRAフィリックス・ザ・キャット] TM&©FELIX THE CAT PRODUCTIONS, INC.	 [CRトゥームレイダー] ©2007 Paramount Pictures Corp. All Rights Reserved. Lara Croft and Tomb Raider are trademarks of Eidos Interactive Limited. Eidos and the Eidos logo are trademarks of the Eidos Group of Companies. All rights reserved.
	4Q	 [CR新世紀エヴァンゲリオン～使徒、再び～] ©GAINAX・カラー / Project Eva. ©Bisty	エヴァシリーズ最高販売台数の 19.7万台を記録	

>>> TOPICS

京楽産業.(株)と業務提携し、開発力をさらに強化。

京楽産業.(株)は、「CRぱちんこ必殺仕事人Ⅲ」「CRぱちんこ冬のソナタ2」などのヒット商品に代表されるように、多彩な演出やゲーム性に秀でたクオリティの高い商品開発能力が広く評価されています。



当社は、2008年2月、同社と新製品の開発に向け相互に協力し、よりエンタテインメント性の高い遊技機の企画・開発・販売を行うことで合意しました。

パチスロ遊技機販売事業 | 上半期の入替え需要を見込み、タイトルを重点投入。

上半期は旧規則対応パチスロ遊技機の設置期限に伴う過去最大の入替え需要が集中すると予測し、新規則対応パチスロ遊技機を重点的に6機種投入、新時代のパチスロ市場の開拓に積極的に努めました。下半期には4機種投入し、優れた商品の安定的な供給を図りました。その結果、総販売台数は21万

台強となりました。

2009年3月期は、人気タイトルを中心に、新たなファン層を獲得できるようなエンタテインメント性、ゲーム性に優れた有力商品を継続的に提供していきます。

パチスロ遊技機

		パチスロ遊技機			
上半期	1Q	 <p>「モーニング娘。」 ©UP-FRONT AGENCY/FIELDS</p>	 <p>「デビル メイ クライ 3」 ©CAPCOM CO.,LTD. 2005 ALL RIGHTS RESERVED./ ILLUSTRATIONS: Kazuma Kaneko/ATLUS ©Sammy ©RODEO</p>	<div style="border: 1px dashed orange; padding: 10px; text-align: center;"> <p>入替え需要に対応し、魅力的な商品を投入</p> </div>	
	2Q	 <p>「新世紀エヴァンゲリオン ~まごころを、君に~」 ©GAINAX・カラー／Project Eva.</p>	 <p>「快傑ハリマオ」 ©宣弘企画</p>		
下半期	3Q	 <p>「ビーチクラブ」</p>	 <p>「バーチャファイター」 ©SEGA ©Sammy ©RODEO</p>	<div style="border: 1px dashed orange; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ゲーム性に優れた商品を安定的に供給</p> </div>	
	4Q	 <p>「天下無敵! サラリーマン金太郎」 ©本宮ひろ志/集英社/FIELDS ©Sammy ©RODEO</p>	 <p>「真・三國無双」 ©KOEI Co., Ltd. All rights reserved.</p>		

グローバル&マルチユース戦略で、販売本数の大幅増を達成。

グループで推進するコンテンツのクロスメディア戦略における重点セグメントと位置づけ、北米、欧州、日本での事業展開を加速しています。当期は、グローバルコンテンツタイトルの積極投入が奏功し、欧米市場の収益基盤強化をさらに一歩進めました。

欧米

グローバルコンテンツの販売が好調に推移。

海外市場では、北米でグローバルコンテンツのタイトルを積極的に投入し、欧州においては引き続き北米および日本から供給されたタイトルの販売に注力しました。なかでも、2008年3月にワールドワイドに投入したオリジナルグローバルコンテンツ「darkSector」の販売が好調に推移しました。また「NARUTOシリーズ」が合計100万本超のヒットを記録、「Ben10～PROTECTOR OF EARTH～」についても順調な出荷実績となるなど、アニメ系タイトルが業績に大きく寄与しました。

「darkSector」が市場の高い評価を獲得。

2008年3月、「プレイステーション3」「Xbox360」向けオリジナルグローバルタイトルとして北米・欧州で発売しました。北米で開発実績に定評のあるDigitalExtremesの制作による本編は、素早いアクションや恐るべき特殊能力、そして魅力的なストーリーをプレイヤーに提

2009年3月期は、販売好調であったタイトルの続編の投入や新しい著作権タイトルの投入など、引き続き有力コンテンツを活用したワールドワイドでの事業展開を強化していきます。



「NARUTO」
NARUTO
©2002 MASASHI KISHIMOTO. Game and Software ©2007 TOMY CLASH OF NINJA™ and ©2002 TOMY. PATH OF NINJA™ and ©2007 SHUEISHA. All rights reserved.



「Ben10」
CARTOON NETWORK, BEN 10, the logos and all related characters and elements are trademarks of ©Cartoon Network, (s07) Game and Software ©2007 D3Publisher of America, Inc. Published exclusively by D3Publisher of America, Inc. worldwide.



「darkSector」
Dark Sector©2007 Digital Extremes, London, Canada. Dark Sector and the Dark Sector logo are trademarks of Digital Extremes. Digital Extremes and the Digital Extremes logo are trademarks of 1065522 Ontario Ltd. ALL RIGHTS RESERVED. Published by D3 Inc. under license from Digital Extremes. All other trademarks are property of their respective owners.

供するアクションスリラーで、発売以来、市場から高い評価を頂いています。

日本

フルプライスソフト、モバイルコンテンツが順調に推移。

国内市場では、フルプライスゲームソフトおよび主力商品である「SIMPLEシリーズ」を主にニンテンドーDS向けに投入するなど積極的な事業展開を行いました。また、当社とのシナジービジネスであるパチンコ・パチスロ遊技機用シミュレーターソフトの販売が引き続き堅調に推移しました。モバイル事業においては、会員数、コンテンツ供給数、ともに順調に推移しました。

2009年3月期は、安定的な販売実績を誇る「SIMPLEシリーズ」とあわせ、モバイル事業の強化を図り、多くのユーザーに楽しんで頂ける商品の販売を継続強化していきます。



「CR新世紀 エヴァンゲリオン～奇跡の価値は～」

©GAINAX: カラー / Project Eva. ©Sisly ©D3 PUBLISHER



SIMPLE100シリーズ

一次コンテンツ創出と出口戦略をさらに強化。

スポーツ、モバイル、映画、アニメーションなど各分野において、一次コンテンツの創出に向け積極的な先行投資を推進しました。専門性の高い企業の設立やグループ化を進め、各企業の収益性向上とグループ間シナジーの強化による収益の早期改善に努めています。

スポーツ分野

多彩なアプローチで、スポーツ関連市場を開拓。

ソリューション事業の「トータル・ワークアウト」はサービス提供価格の適正化を実施するとともに、スポーツマーケティングを含めた地方都市展開への施策を進め、同ブランド4店舗目となる福岡店をオープンしました。

アスリートマネジメント事業では、「クルム伊達公子(テニス)」「清原和博(プロ野球)」「山本“KID”徳郁(格闘技)」「岩崎恭子(水泳)」「(順不同、敬称略)をはじめとした選手のマネジメントに加え、将来有望な選手のマネジメント契約獲得に努めています。



Total Workout 福岡店

モバイル分野

運営サイトが順調に成長。携帯電子書籍市場にも参入。

エンタテインメント情報の総合コンテンツを提供する「フィールズモバイル」の有料会員数が、サービス提供から約1年間で30万人(2008年3月末時点)を超えるなど着実に成長しています。その他携帯コンテンツの企画・開発にも着手しており、今後順次展開する予定です。また、新たにWebマガジンの運営会社に出資し、携帯電子書籍の配信ビジネスに参入しました。

映像分野

アニメーション制作の新会社設立など、さまざまな先行投資を実施。

当社グループ全体の一次コンテンツ創出をけん引するために、映画、アニメーションおよびコンテンツファンなどへの投資を引き続き実施しました。映画やアニメーションにおいて、着実に実績を積み重ねると同時に、各関連会社による同作品のゲーム化などグループ会社間のシナジー効果が生まれています。

また、アニメーションの企画・制作・プロデュースを目的としたルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)が2010年3月期での収益化を目指して新たに活動を開始するなど、一層のグループ基盤の強化に努めました。

>>> 新規グループ会社

■ (株)EXPRESS

事業内容

○スポーツクラブ運営事業

役割

○西日本におけるチーム、アスリートとのリレーション強化

■ ハルキ・フィールズシネマファン

事業内容

○角川春樹氏プロデュース作品の映画製作事業

役割

○コンテンツ創出と二次利用展開

■ (株)エスピーオー

事業内容

○劇場用映画の企画・制作・配給、ビデオグラムの企画・制作・販売事業

役割

○保有ライセンスの配給・興行、ビデオグラムの製作・販売

■ (株)Bbmfマガジン

事業内容

○モバイルコミック配信を中心とする出版事業

役割

○コンテンツ創出と二次利用展開

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2007年3月31日現在	当連結会計年度 2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	46,144	39,559
現金及び預金	17,902	12,841
受取手形及び売掛金	18,523	12,354
たな卸資産	2,972	4,013
繰延税金資産	1,517	2,271
商品化権前渡金	—	4,397
その他	5,286	3,774
貸倒引当金	△ 57	△ 92
固定資産	19,936	29,609
有形固定資産	5,756	8,093
無形固定資産	4,036	3,937
投資その他の資産	10,144	17,578
投資有価証券	6,216	13,212
長期貸付金	104	102
繰延税金資産	363	790
敷金保証金	2,464	2,893
その他	1,266	934
貸倒引当金	△ 272	△ 355
資産合計	66,081	69,168

(注)表示方法の変更
(連結貸借対照表)

前連結会計年度まで流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「商品化権前渡金」については、資産の総額の100分の5を超えることとなったため、区分掲記することに変更いたしました。なお、前連結会計年度の「商品化権前渡金」の金額は、2,572百万円であります。

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2007年3月31日現在	当連結会計年度 2008年3月31日現在
負債の部		
流動負債	18,865	19,322
支払手形及び買掛金	9,094	5,954
短期借入金	2,230	3,398
1年内返済予定長期借入金	917	804
1年内償還予定社債	120	120
未払法人税等	2,032	3,743
賞与引当金	25	174
役員賞与引当金	98	128
受注損失引当金	—	49
事務所移転損失引当金	—	32
その他	4,347	4,915
固定負債	4,379	3,514
社債	370	250
長期借入金	1,238	434
退職給付引当金	195	211
預り保証金	2,575	2,459
その他	—	158
負債合計	23,244	22,836
純資産の部		
株主資本	40,886	44,795
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	24,943	28,852
評価・換算差額等	228	△ 309
その他有価証券評価差額金	214	△ 249
為替換算調整勘定	13	△ 59
新株予約権	15	43
少数株主持分	1,705	1,802
純資産合計	42,836	46,331
負債純資産合計	66,081	69,168

(注)会計処理の変更
(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正(「所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号」及び「法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号」)に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。この結果、従来の方によった場合に比べて、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ41百万円減少しております。

(注)追加情報
(有形固定資産の減価償却方法)

当社及び国内連結子会社は、当連結会計年度から、平成19年3月31日以前に取得したのものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。この変更による損益に与える影響は軽微であります。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	
	前連結会計年度 2006年4月1日~2007年3月31日	当連結会計年度 2007年4月1日~2008年3月31日
売上高	85,321	101,818
売上原価	56,072	67,274
売上総利益	29,248	34,544
販売費及び一般管理費	20,303	21,385
営業利益	8,944	13,158
営業外収益	439	313
営業外費用	181	1,766
経常利益	9,202	11,705
特別利益	110	97
特別損失	1,086	1,292
税金等調整前当期純利益	8,226	10,509
法人税、住民税及び事業税	5,058	6,022
法人税等調整額	△ 625	△ 921
少数株主利益	83	111
当期純利益	3,710	5,296

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	
	前連結会計年度 2006年4月1日~ 2007年3月31日	当連結会計年度 2007年4月1日~ 2008年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,293	11,127
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,772	△ 14,604
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,488	△ 1,384
現金及び現金同等物に係る換算差額	32	△ 275
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	2,042	△ 5,136
現金及び現金同等物の期首残高	15,777	17,819
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	10
現金及び現金同等物の期末残高	17,819	12,693

連結株主資本等変動計算書 当連結会計年度(2007年4月1日~2008年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等			新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2007年3月31日残高	7,948	7,994	24,943	40,886	214	13	228	15	1,705	42,836
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△ 1,388	△ 1,388	—	—	—	—	—	△ 1,388
当期純利益	—	—	5,296	5,296	—	—	—	—	—	5,296
連結範囲の変動	—	—	△ 0	△ 0	—	—	—	—	—	△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	△ 464	△ 73	△ 537	27	96	△ 413
連結会計年度中の変動額合計	—	—	3,908	3,908	△ 464	△ 73	△ 537	27	96	3,494
2008年3月31日残高	7,948	7,994	28,852	44,795	△ 249	△ 59	△ 309	43	1,802	46,331

個別財務諸表等

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前事業年度	当事業年度
	2007年3月31日現在	2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	36,253	26,737
固定資産	21,256	31,885
有形固定資産	5,245	7,344
無形固定資産	2,576	2,652
投資その他の資産	13,434	21,888
資産合計	57,509	58,622
負債の部		
流動負債	12,758	11,614
固定負債	2,749	2,640
負債合計	15,507	14,255
純資産の部		
株主資本	41,786	44,552
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	25,843	28,609
評価・換算差額等	214	△ 184
その他有価証券評価差額金	214	△ 184
純資産合計	42,001	44,367
負債純資産合計	57,509	58,622

(注)表示方法の変更

(貸借対照表)

前事業年度まで流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「短期貸付金」については、資産の総額の100分の1を超えることとなったため、区分掲記することに変更いたしました。なお、前事業年度の「短期貸付金」の金額は、535百万円であります。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	前事業年度	当事業年度
	2008年4月1日~2007年3月31日	2007年4月1日~2008年3月31日
売上高	71,314	82,758
売上原価	46,164	54,270
売上総利益	25,150	28,488
販売費及び一般管理費	16,150	15,854
営業利益	8,999	12,634
営業外収益	407	326
営業外費用	13	497
経常利益	9,393	12,463
特別利益	89	90
特別損失	749	5,247
税引前当期純利益	8,734	7,306
法人税、住民税及び事業税	4,272	4,966
法人税等調整額	△ 311	△ 1,813
当期純利益	4,773	4,153

(注)会計処理の変更

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

法人税法の改正((所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号)及び(法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号))に伴い、平成19年4月1日以降に取得したのものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。この結果、従来の方法によった場合に比べて、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ38百万円減少しております。

(注)追加情報

(有形固定資産の減価償却方法)

当事業年度から、平成19年3月31日以前に取得したのものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

株主資本等変動計算書 当事業年度(2007年4月1日~2008年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	利益剰余金合計					
2007年3月31日残高	7,948	7,994	7,994	9	20,000	5,834	25,843	41,786	214	214	42,001
事業年度中の変動額											
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△ 1,388	△ 1,388	△ 1,388	—	—	△ 1,388
当期純利益	—	—	—	—	—	4,153	4,153	4,153	—	—	4,153
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 399	△ 399	△ 399
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	2,765	2,765	2,765	△ 399	△ 399	2,366
2008年3月31日残高	7,948	7,994	7,994	9	20,000	8,600	28,609	44,552	△ 184	△ 184	44,367

株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
株主数	12,208名

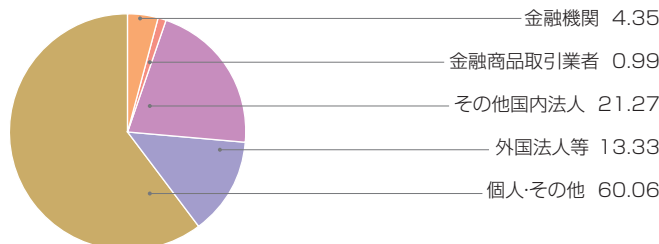
大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本英俊	86,750	25.00
株式会社SANKYO	52,050	15.00
山本剛史	36,128	10.41
有限会社ミント	16,000	4.61
シービーエヌワイ サクソンファンズ マネージメント リミテッド	9,501	2.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,875	2.56
ザ チェース マンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	5,507	1.59
大屋高志	5,000	1.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,522	1.01
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	3,050	0.88

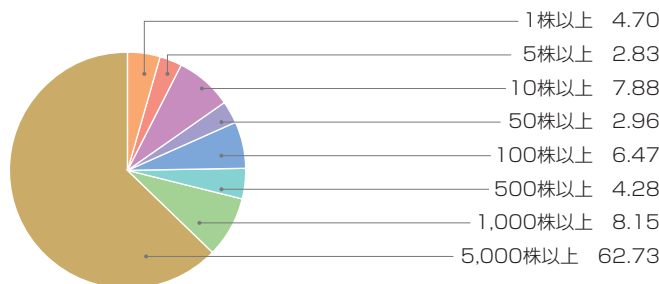
(注1) 前事業年度末現在主要株主であったサミー株式会社は、当事業年度末では主要株主ではなくなり、株式会社SANKYO、大屋高志が新たに主要株主となりました。

(注2) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式は、全て信託業務に係る株数であります。

所有者別分布状況 (%)



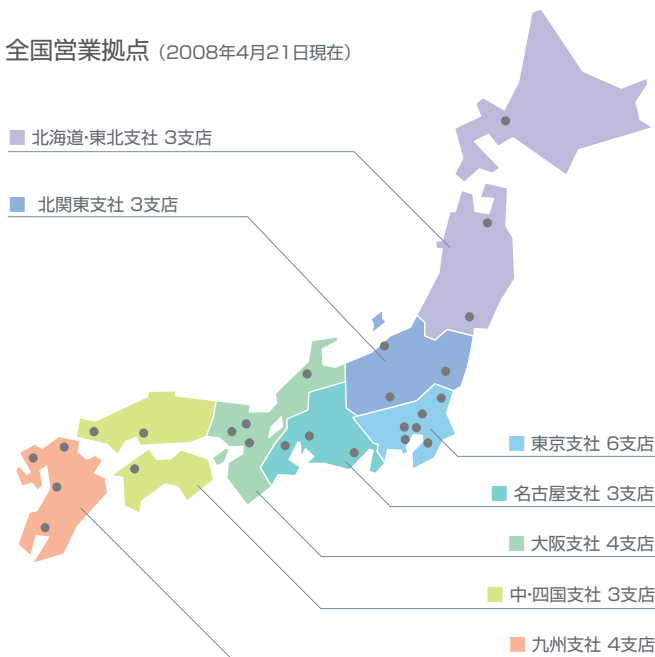
所有株数別分布状況 (%)



会社概要

商号	フィールズ株式会社 (英文名: FIELDS CORPORATION)		
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」		
設立	1988年6月 (1983年に東洋商事の名で事業を開始)		
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E:スペースタワー		
事業内容	1)遊技機の企画開発 2)遊技機の仕入、販売 3)キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4)映像ソフトの企画開発、販売		
資本金	79億4,803万円		
従業員数	1,077名(連結)		
連結対象会社	フィールズジュニア(株) (株)ディースリー ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) (株)フューチャースコープ ジャパン・スポーツ・マーケティング(株) 他14社		

全国営業拠点 (2008年4月21日現在)



当社ホームページのご紹介



業績情報やプレスリリースなど、最新の情報を随時発信しています。ぜひご活用ください。

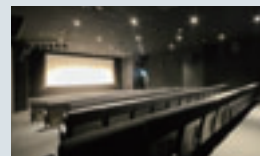
TOPページアドレス
<http://www.fields.biz>

IRページアドレス
<http://www.fields.biz/ir/j>

>>> TOPICS

営業拠点の機能強化をさらに推進。

2008年4月、新たに名古屋支社をオープンしました。大規模かつ最新鋭のショールームとシアターを有し、お客様へ最高のプレゼンテーションとおもてなしを提供できる環境を整備しています。商品Webページと連動し、お客様に商品の実体験を促すとともに、あらゆるメーカーにインフラとして活用頂くことも狙いとしています。



シアター



ショールーム

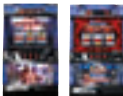
主要グループ会社一覧

PS・フィールド

(株)ロデオ



当社はパチスロ機のトップメーカー、サミー(株)のグループ会社であるロデオに資本参加し、その総発売元となっています。サミーグループの高い開発力と、当社の有力商品化権および企画開発力を融合したコラボレーションを積極的に推進しています。



フィールズジュニア(株)

全国で約1,100名の大学生を登録管理し、パチンコ・パチスロ遊技機の納品設置業務を担当しています。また、全国約1万3,500店舗のパチンコホールを対象に設置機種や入客状況などのマーケット調査も実施し、新機種の企画開発などにフィードバックしています。



新規グループ会社 ■ 新日テクノロジー(株)

ゲーム・フィールド

(株)ディースリー (証券コード4311)

<http://www.d3i.co.jp>



ゲーム・パブリッシャーとして、日本、北米、欧州の事業会社で構成される持株会社体制のもと、ワールドワイドに事業を展開。グループ各社との緊密な連携により、欧米市場における商品化権取得活動の活発化、コンテンツプロバイダー事業の強化、およびゲームソフトのより迅速な商品企画・開発・販売に取り組んでいます。



(株)シンクアーツ

<http://www.thinkarts.jp/>

thinkArts

パチンコ・パチスロ遊技機用画像ソフトウェア開発およびゲームソフト開発を行っています。グループ各社と連携し、価値の高いデジタルコンテンツを作りこむ体制を着実に構築していきます。

その他フィールド

ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)

<http://www.jsm.jp>



スポーツイベントのプロデュースや放映権ビジネスをはじめとするスポーツ・マーケティングやアスリートマネジメント、フィットネスジムの運営など、広範なスポーツ・エンタテインメント事業をグローバルに取り組んでいきます。

(株)フューチャースコープ



<http://www.futurescope.jp/>

モバイルエンタテインメントの可能性を追求し、“もっと便利で楽しい”生活スタイルの提案を行う会社として2006年10月に設立。フィールズの有する幅広いコンテンツを活用し、様々なエンタテインメントサービスとコミュニティサービスの実現を目指しています。

フィールズピクチャーズ(株)



<http://www.fieldspictures.co.jp/>

映画やアニメーションなどの有力コンテンツの創出を目的として事業を開始しました。パチンコ・パチスロのみならずゲームなど「デジタルコンテンツ」を軸としたマルチユース化を図り、当社グループの一次コンテンツの創出を担っていきます。

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)

LUCENT PICTURES

<http://www.lpei.co.jp/>

アニメーションを中心とした映像コンテンツの企画開発から制作、プロモーションまでをトータルにプロデュースする事業会社として、2007年10月より営業を開始。創造性と商業性を併せ持った作品を通じて、世界中のユーザーの皆様へ夢と感動を提供していきます。

ジー・アンド・イー(株)

<http://www.g-e.jp/>



(株)SANKYO、サミー(株)、フィールズ(株)の3社の共同資本により設立された、日本初、業界初の総合エンタテインメント企業のための人材育成スクールです。業界の基礎知識からビジネススキル向上、最前線の技術・知識を体系的に学習することができます。

(株)角川春樹事務所

<http://www.kadokawaharuki.co.jp/>

角川春樹事務所
KADOKAWA HARUKI CORPORATION

出版、映画、音楽など多方面にコンテンツ展開するメディアミックス戦略の先駆者として知られています。当社は同社が保有するコンテンツのマルチユースに関して共同で事業展開すると同時に、同社の各種コンテンツ開発能力を活用して一次コンテンツの創造、一次キャラクターの創出を図っていきます。

新規グループ会社 ■ (株)EXPRESS ■ ハルキ・フィールズシネマファンド
■ (株)エスピーオー ■ (株)Bbmfマガジソン

株主メモ

事業年度末日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 同事務取扱所 〒168-0063 (連絡先・送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
上場証券取引所	JASDAQ
公 告 方 法	電子公告掲載URL http://www.fields.biz (事故、その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。)

お知らせ

株式に関するお手続き用紙のご請求について

住所変更、名義書換請求および配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

フィールズ株式会社

〒150-0044

東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー

お問い合わせ先 ir@fields.biz